

ハタハタ資源対策協議会資料

水産振興センター

表1 漁獲可能量と漁獲実績の推移

年	沖合			沿岸			合計		
	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)	可能量	漁獲量	実績(%)
平成7年	85	53.8	63.3	85	88.7	104.4	170	142.5	83.8
平成8年	110	86.1	78.3	110	157.2	142.9	220	243.3	110.6
平成9年	180	161.2	89.6	180	290.8	161.6	360	452.0	125.6
平成10年	300	178.4	59.5	300	436.8	145.6	600	615.2	102.5
平成11年	400	143.0	35.8	600	579.1	96.5	1,000	722.1	72.2
平成12年	400	265.7	66.4	600	901.8	150.3	1,000	1,167.5	116.7
平成13年	520	547.8	105.3	780	986.2	126.4	1,300	1,534.0	118.0
平成14年	680	380.1	55.9	1,020	1,570.1	153.9	1,700	1,950.2	114.7
平成15年	960	903.9	94.2	1,440	2,058.6	143.0	2,400	2,962.5	123.4
平成16年	1,000	787.7	78.8	1,500	2,348.7	156.6	2,500	3,136.4	125.5
平成17年	1,000	488.2	48.8	1,500	1,866.6	124.4	2,500	2,354.8	94.2
平成18年	800	943.4	117.9	1,200	1,640.2	136.7	2,000	2,583.7	129.2

※集計期間：平成9年以前は暦年、平成10年以降は9月～翌年6月

・配分枠に対して、沖合117.9%、沿岸136.7%、全体では129.2%の実績となった。

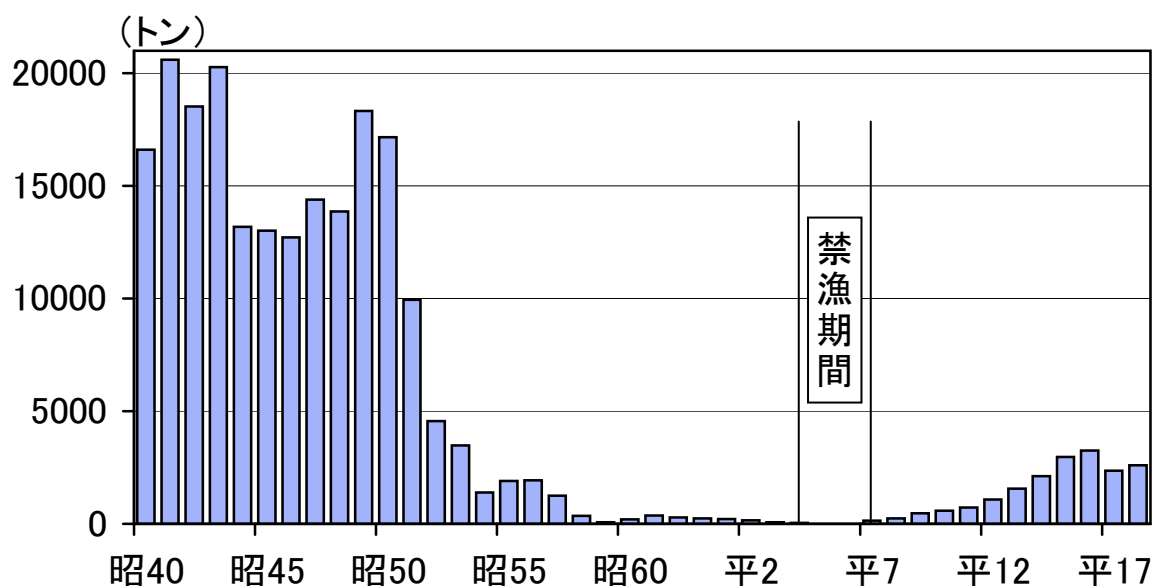


図1 秋田県ハタハタ漁獲量の推移

※17年以前は農林水産統計漁獲量、18年は水産漁港課調べ

・禁漁とその後の資源管理によって、一時の低迷期は脱したが、近年頭打ち傾向がみられる。

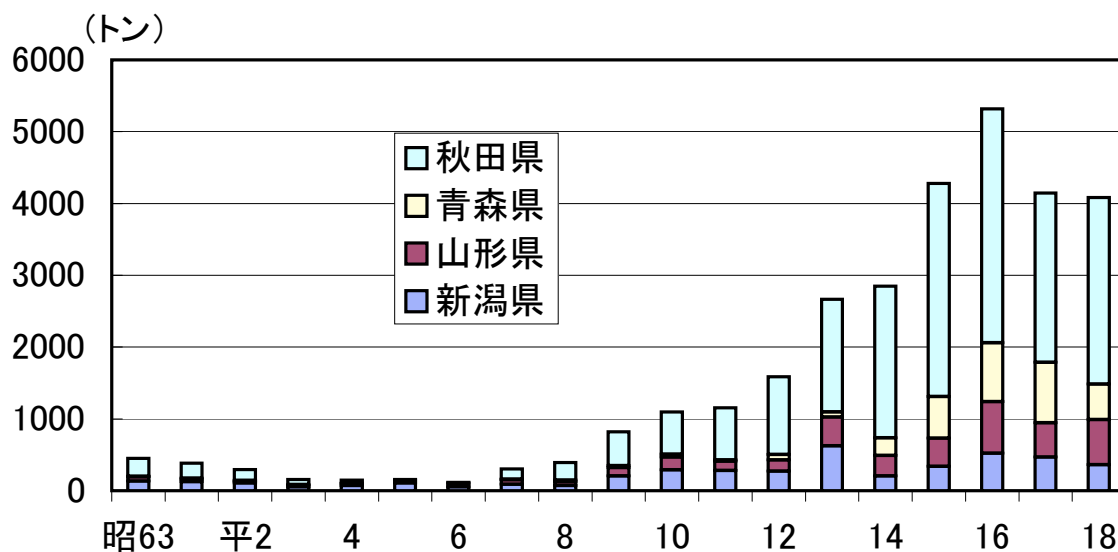


図2 日本海北部4県における漁獲量の推移

- ・4県の合計は4000トン台を維持している。
- ・秋田県の割合は63.7%で、前年(57.3%)よりも6.4ポイント増加した。
- ・県別には青森492トン(前年比58.3%)、山形632トン(133.2%)、新潟359トン(76.5%)と、青森及び新潟県の減少が大きい。

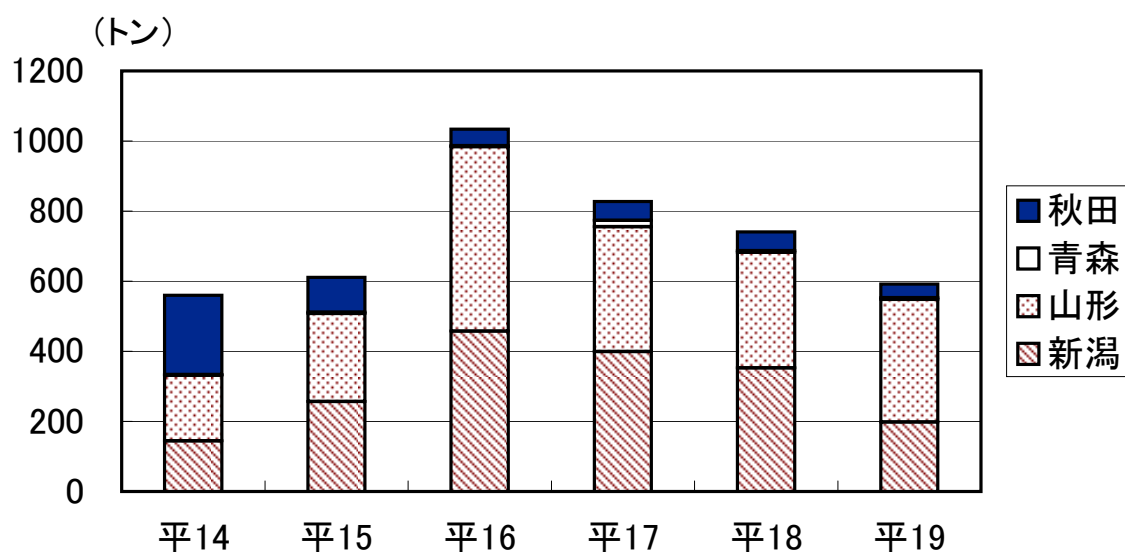


図3 1～6月における日本海北部4県底びき網漁獲量の推移

- ・日本海北部全体の漁獲量は592トンで、前年より19.6%減少した。
- ・平成16年以降は減少傾向にある。

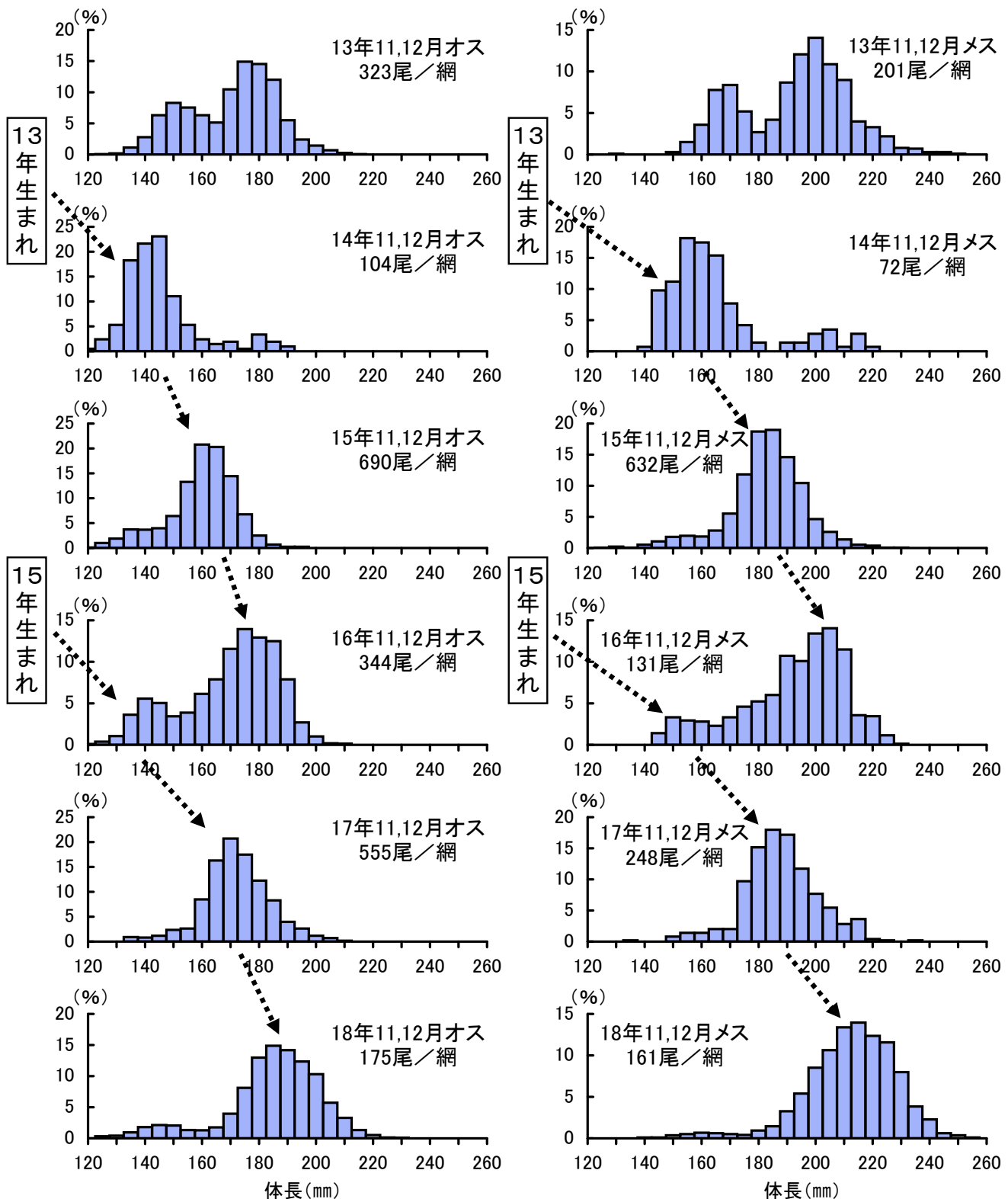


図4 11、12月におけるハタハタ体長組成(千秋丸底びき調査)

- ・昨年は例年になく大型魚(4歳魚)の割合が高かった。
- ・昨年の4歳魚は寿命により、本年は減少すると考えられる。

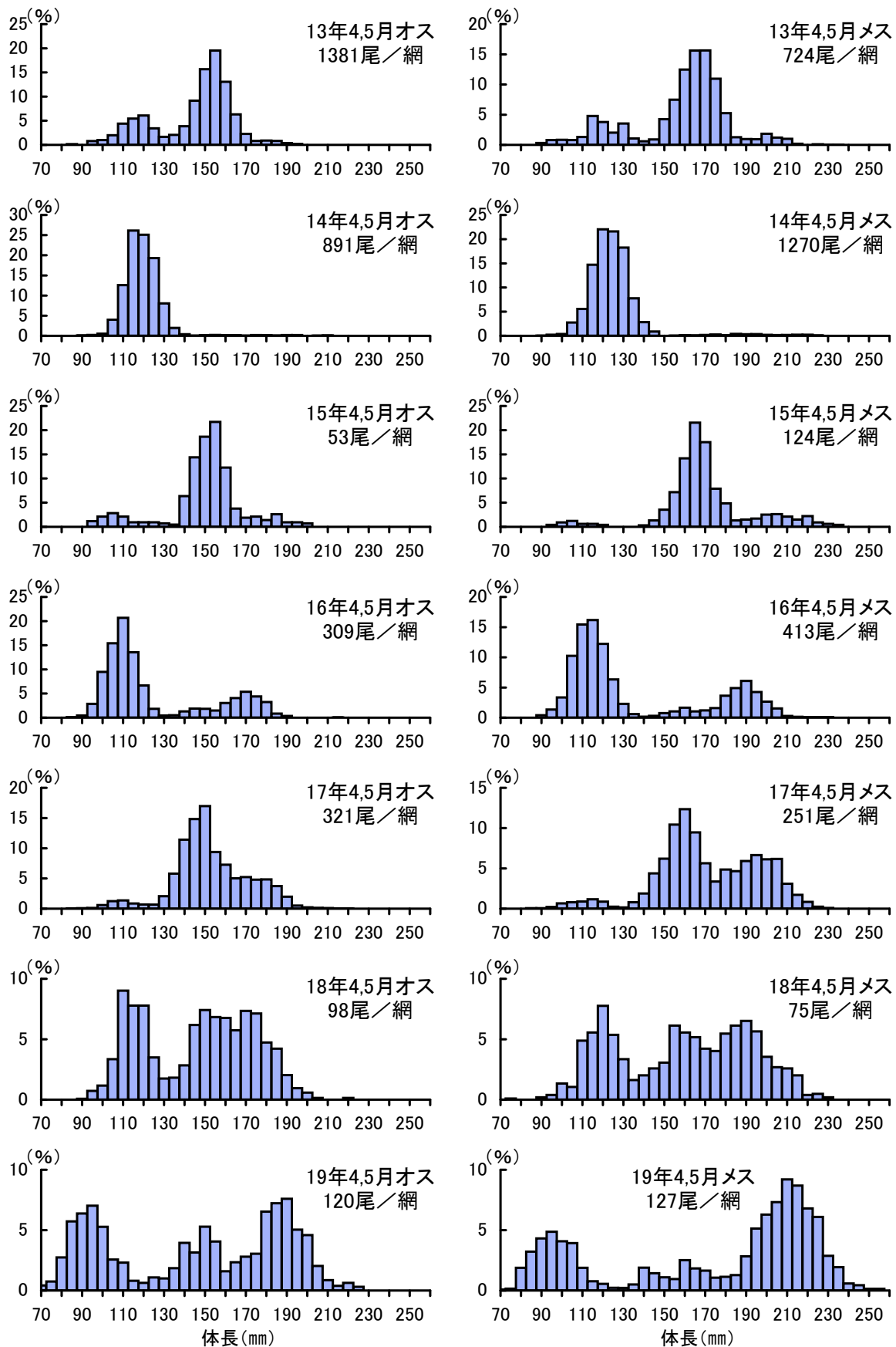


図5 4、5月におけるハタハタ体長組成(千秋丸底びき調査)
 ・今年新たに資源に加わる18年生まれは小型である。
 ・この時点では、まだ大型魚が残っていた。

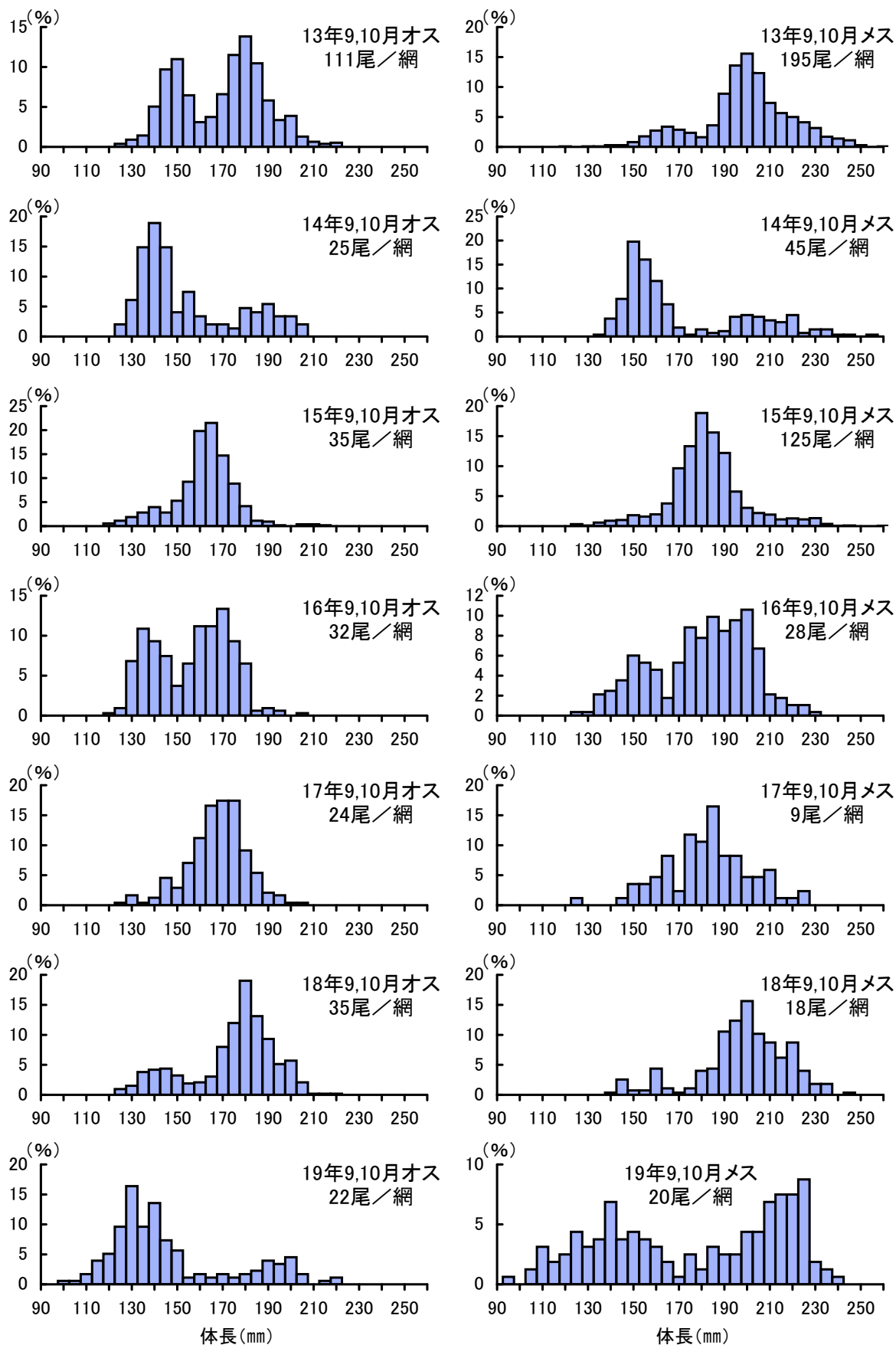


図6 9、10月におけるハタハタ体長組成(千秋丸底びき調査)
 ・18年生まれのサイズは特にメスで小さい。
 ・大型魚の比率は低下した。

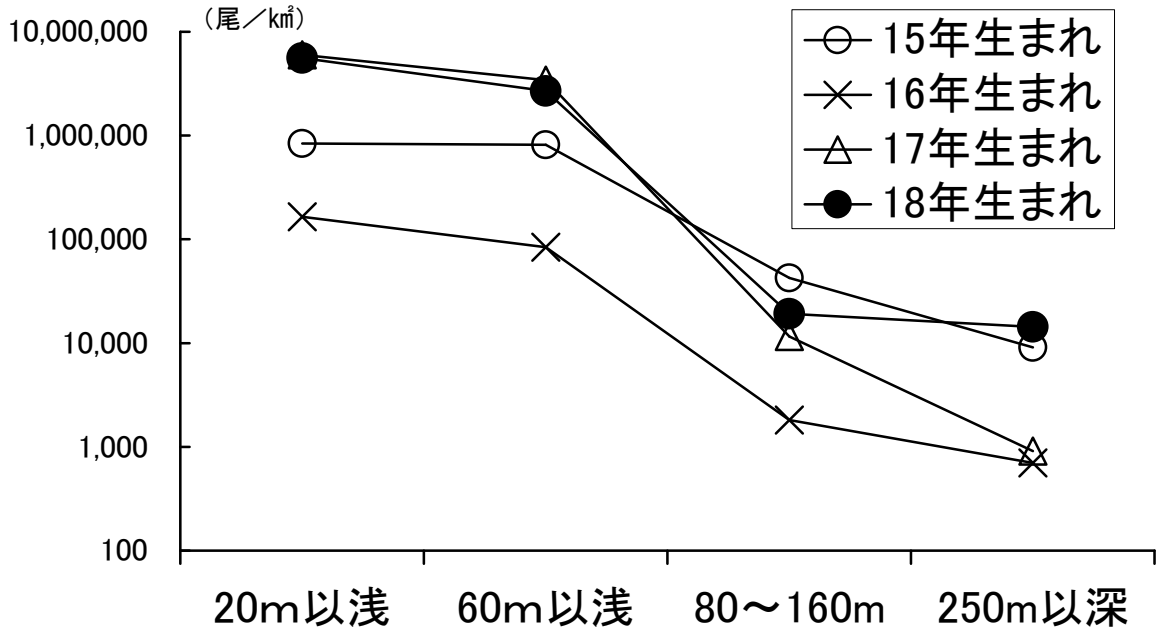


図7 年別稚魚の生息密度(第二千秋丸ハタハタ稚魚調査)

- ・18年生まれは本年12月に初めて接岸する。
- ・その量は多く、15年生まれの1.6倍、16年生まれの20.5倍、17年生まれの15.8倍と推定された。

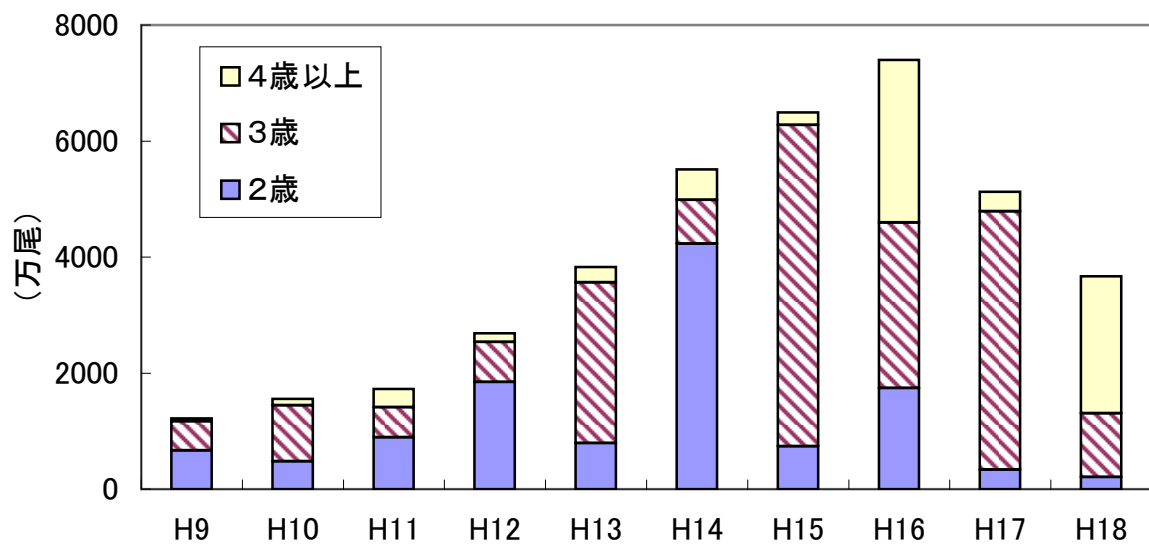


図8 日本海北部4県における年齢別漁獲尾数の推移

- ・昨年は、2,3歳魚(16、17年生まれ)が少なく、大型の4歳魚(15年生まれ)が主体となったことから、漁獲尾数が減少した。
- ・15年生まれは大型魚として近年の漁獲を支えてきたが、本年は寿命により減少すると考えられる。

漁獲対象資源量の推定

・19年漁期の資源は、新たに加加入する小型の2歳魚が主体となり、その中に昨年取り残した大型魚(3, 4歳魚以上)が混ざると考えられる。

・新たに加加入する18年生まれは、調査船による調査結果によると、その尾数が非常に多く、解禁以降では平成13年生まれに次いで2番目であると考えられる。この年級群を大切にすることによって、来年以降の漁獲増に結びつくと考えられる。

・解析の結果、秋田県の漁獲対象資源尾数は、2歳魚5千6百万尾、3歳魚5百万尾、4歳魚以上6百万尾の計6千7百万尾と推定され、資源量は約3,600トンと推察された。